

経営改善及び連携・活用に関する取組評価 (令和2(2020)年度)

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

1. 本市が法人に求める経営改善及び連携・活用に関する取組

本市施策における法人の役割

誰もが気軽に文化芸術に触れ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることができるよう、文化芸術活動を振興し、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進める必要があります。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、多様な文化芸術事業を展開することで、文化芸術の魅力を発信し、新しい都市イメージの向上に貢献することも求められています。また、平成29年に改正された文化芸術基本法では、文化芸術団体が文化芸術活動に主体的に取り組み、その充実等に積極的な役割を果たすべき旨が規定され、さらに平成30年には障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が制定されるなど、文化芸術活動において財団に期待される役割はより大きくなっています。

そのために、市民の文化芸術活動の振興等を目的として設立された川崎市文化財団は、文化の専門的な組織としての役割を果たし、多様な文化芸術事業の実施、文化芸術施設の効果的な運営、文化芸術活動を担う地域人材の育成等を行うことで、文化施策の一翼を担うこと、芸術を活かしたまちづくりに貢献することが期待されます。

法人の取組と関連する計画	市総合計画と連携する計画等	基本政策	施策
		スポーツ・文化芸術を振興する	市民の文化芸術活動の振興
	分野別計画	川崎市文化芸術振興計画	

4カ年計画の目標

- 地域の文化資源を活用した多様な文化芸術事業の実施、運営施設の利用促進、文化芸術に係る中間支援の取組を推進し、文化芸術の一層の振興を推進します。
- 川崎市の文化芸術振興に寄与する専門組織として、専門人材の確保・育成を行い、財団の機能強化を推進します。
- 文化芸術施設の施設経営に関するノウハウを活かし、文化芸術施設の指定管理の継続受託を見据えながら、施設の管理運営を担っていくことで、経営基盤の安定化を図っていきます。
- 自己収入割合を向上させるとともに、効率的な施設運営等による支出の削減を進め、財団経営の健全化を進めます。

2. 本市施策推進に向けた事業取組

取組No.	事業名	指標	単位	現状値 (平成29 (2017)年度)	目標値 (令和2 (2020)年度)	実績値 (令和2 (2020)年度)	達成度 (※1)	本市による評価 ・達成状況 (※2) ・費用対効果 (※3)	今後の取組の 方向性 (※4)
①	財団本部事業	財団所管施設の稼働率	%	61.5	64.5	32.4	d	E	II
		財団所管施設における財団主催事業の参加者数	人	5,469	6,400	1,891	d		
		事業別の行政サービスコスト	千円	151,918	142,000	182,139	4)	(4)	
②	指定管理事業	指定管理施設の稼働率	%	61.3	64.5	46.9	c	D	II
		指定管理施設における主催事業の参加者数	人	161,766	178,000	66,802	d		
		事業別の行政サービスコスト	千円	924,855	924,855	1,039,324	3)	(4)	
③	文化芸術に係る中間支援	文化芸術に係る相談件数	件	-	40	40	a	A	II
		パラアート事業の支援団体数	団体	8	12	13	a		
		事業別の行政サービスコスト	千円	7,314	7,000	1,965	1)	(1)	

3. 経営健全化に向けた取組

取組№	項目名	指標	単位	現状値 (平成29 (2017)年度)	目標値 (令和2 (2020)年度)	実績値 (令和2 (2020)年度)	達成度	本市による 評価 ・達成状況	今後の取組の 方向性
①	自主財源の確保	自己収入額	千円	1,656,440	1,668,440	1,356,396	c	D	Ⅱ
②	自律的な事業運営	事業費に対する自主財源率	%	83.0	85.4	77.4	c	D	Ⅱ
③	収益事業の推進	収益事業の経常収益	千円	310,661	324,000	276,378	c	D	Ⅱ

4. 業務・組織に関する取組

取組№	項目名	指標	単位	現状値 (平成29 (2017)年度)	目標値 (令和2 (2020)年度)	実績値 (令和2 (2020)年度)	達成度	本市による 評価 ・達成状況	今後の取組の 方向性
①	職員の専門性の向上	研修への参加回数	回	15	21	10	d	E	Ⅱ
②	コンプライアンス(法令等の遵守)の徹底	コンプライアンスに反する事案の発生件数	件	0	0	0	a	A	I

【※1】a. 目標値以上、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

(行政サービスコストに対する達成度については、1. 実績値が目標値の100%未満、2. 実績値が目標値の100%以上～110%未満、3. 実績値が目標値の110%以上～120%未満、4. 実績値が120%以上)

【※2】A. 目標を達成した、B. ほぼ目標を達成した、C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった、D. 現状を下回るものが多くあった、E. 現状を大幅に下回った】

【※3】(1). 十分である、(2). 概ね十分である、(3). やや不十分である、(4). 不十分である】

【※4】I. 現状のまま取組を継続、II. 目標の見直し又は取組の改善を行い取組を継続、III. 状況の変化により取組を中止】

本市による総括

各取組の評価結果を踏まえ、本市が今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など

【令和元(2019)年度取組評価における総括コメントに対する法人の受止めと対応】

新型コロナウイルス禍において、主催事業の中止や延期、定員50%以内での開催、貸館施設の休館等を実施するなど令和2年度は大変厳しい状況にありましたが、令和元年度の市の総括を踏まえ、財団所管施設の稼働率の向上や主催事業の集客に取り組みました。

文化芸術に係る中間支援については、展示プログラムやネットワークプログラム等の実施、インターネットによる情報発信、相談窓口の開設などにより、文化芸術の振興に努めました。

経営健全化に向けて、引き続き、文化庁等補助金の確保に努めるとともに、新型コロナウイルス禍において施設利用料収入や物販収入の大幅な減収が見込まれたため、雇用調整助成金や持続化給付金等の国庫補助金や神奈川県等の文化芸術活動再開加速化事業補助金などを活用し、自己収入の確保に努めました。

職員の専門性の向上やコンプライアンスの徹底に努めました。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催や川崎市市制100周年に向けて、経営基盤の強化、文化芸術の振興や文化芸術に係る中間支援等に取り組みました。

【令和2(2020)年度取組評価における総括コメント】

本市施策推進に向けた事業取組については、新型コロナウイルスによる影響により目標未達成の取組が多く、施設の稼働率や主催事業の集客において、課題があります。一方で、文化芸術に係る中間支援の取組においては、目標を達成し、文化芸術に係る中間支援を通じた文化芸術の振興に寄与することができました。

経営健全化に向けた取組についても、新型コロナウイルスによる影響のため目標未達成となり、自己収入の確保等に課題があります。

業務・組織に関する取組については、目標未達成の取組もありましたが、コンプライアンスの徹底を図ることができました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、市内の文化芸術活動も大きな影響を受けており、オンラインでのイベント展開など、文化芸術事業のあり方も変容しつつあります。その中で、持続的な文化芸術を振興していくためには、文化芸術の専門組織である財団の役割はますます大きくなるものと思われます。

経営基盤の強化に向けては、施設利用料の増収、国等の助成金の活用などの従来の自己収入確保の取組をさらに推進するとともに、動画配信などの新たな収益源の獲得も求められます。また、文化芸術の振興に向けては、多様な文化芸術事業の実施、文化芸術施設の効果的な運営を行うとともに、動画配信などの新たな発想による事業展開、団体助成や相談等の文化芸術に係る中間支援を推進することが求められます。

2. 本市施策推進に向けた事業取組①(令和2(2020)年度)

事業名	財団本部事業
計 画 (Plan)	
指標	①財団所管施設の稼働率、②施設における財団主催事業の参加者数
現状	財団は、川崎市能楽堂等の文化芸術施設を運営し、文化芸術振興に係る多様な主催事業を実施しています。公益事業として収支の均衡をとることが難しい状況にもありますが、これらの事業は市民が文化芸術に触れるきっかけとなるものであり、その機会をさらに増やしていく必要があります。
行動計画	様々な媒体を活用した各施設の広報を展開するとともに、魅力的な企画の実施、施設相互の連携や施設の利便性の向上を図り、段階的な施設稼働率の向上を図ります。併せて、地域の文化資源を活用した多様な文化芸術事業を実施し、事業に関する市民ニーズや効果を検証しながら参加者数の増加を図ります。
具体的な取組内容	①所管施設の稼働率向上に向けて、ホームページの充実、広報紙等による施設広報に加え、引き続き、施設周辺企業や過去利用者等への広報など営業活動を積極的にを行います。能楽堂は、能・狂言以外の利用(演劇、コンサート等)を推進します。 ②主催事業の参加者数の増加に向けて、各事業の利用分析などを行い、より魅力的な事業を提供するとともに、ホームページや広報紙、チラシ等に加え、SNSや動画等を活用した積極的な広報を行います。 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、大変厳しい状況が想定されることから、国や県の補助金を積極的に活用し、「新しい生活様式」に対応した取組を進めます。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	<p>国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」を受け、令和2年4月11日から5月31日まで財団所管5施設(かわさき浮世絵ギャラリー含む)を休館し、開館後は感染症対策の各種ガイドラインに基づき、イベントの内容に応じて収容率50%で実施、さらに、本年1月8日から3月31日までは施設の利用時間の繰り上げなどを実施しました。</p> <p>【指標1】 川崎能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホール、アートガーデンかわさきの財団所管4施設は、市民の文化芸術活動の場として、適切な管理運営を行うとともに、施設の有効活用、稼働率の向上に向けて、利用者のニーズに応じた利用調整や、様々な媒体を活用した各施設の広報等の取組を展開しました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により利用キャンセルが多く発生したため、新百合21ホールやラゾーナ川崎プラザソル、アートガーデンかわさきの稼働率は大幅に低下いたしました。その中で、施設利用を促進するための新たな取組として、川崎能楽堂におけるバントマイムや動画撮影など能や狂言以外の貸館、新百合トウェンティワンホールにおける多目的ホールの月利用制限の見直し、ラゾーナ川崎プラザソルにおける基本料金の割引などを実施しました。</p> <p><各施設の稼働率></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30通年</th> <th>R1通年</th> <th>R2通年</th> <th>H30年6~3月</th> <th>R1年6~3月</th> <th>R2年6~3月</th> <th>R2目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川崎能楽堂</td> <td>25.9</td> <td>29.8</td> <td>23.9【減】</td> <td>26.5</td> <td>30.6</td> <td>28.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ラゾーナ川崎プラザソル</td> <td>94.0</td> <td>89.7</td> <td>52.1【減】</td> <td>97.3</td> <td>90.0</td> <td>63.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新百合トウェンティワンホール</td> <td>49.5</td> <td>47.4</td> <td>30.6【減】</td> <td>47.5</td> <td>43.7</td> <td>33.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アートガーデンかわさき</td> <td>75.3</td> <td>78.7</td> <td>23.0【減】</td> <td>74.0</td> <td>79.7</td> <td>27.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>61.2</td> <td>61.4</td> <td>32.4【減】</td> <td>61.3</td> <td>61.0</td> <td>38.2</td> <td>64.5</td> </tr> </tbody> </table> <p><新型コロナウイルスによる施設利用キャンセルの件数> 総件数528件 21ホール:415件 プラザソル:54件 アートガーデンかわさき37件 川崎能楽堂:22件</p> <p>【指標2】 各施設における主催事業について、魅力的な企画の実施や効果的な広報等に取り組むことといたしましたが、国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」を受け、また、感染症対策の各種ガイドラインに基づき、公演の一部中止や収容率50%で実施いたしました。ラゾーナ川崎プラザソル、アートガーデンかわさき及び川崎能楽堂における主催事業の参加者数は、リピーターの高齢化等とともに、アンデパンダン展や能・狂言「人間国宝の競演」の中止、ラゾーナ寄席の3回分中止などにより、前年度より大幅に減少いたしました。一方、21ホールは、令和2年度も自主文化事業の実施を見送りました。</p> <p><各施設の主催事業参加者数></p> <p>21ホール 0人→0人 ※自主文化事業中止 プラザソル 1,148人→523人 ▲625人 ※4~6月ラゾーナ寄席中止など アートG 1,745人→430人 ▲1,315人 ※アンデパンダン展中止 能楽堂 1,747人→938人 ▲809人 ※「人間国宝の競演」中止、収容率50~100%で実施、定期能振替公演実施 合計 4,640人→1,891人 ▲2,749人</p> <p>「新しい生活様式」の取組として、川崎能楽堂の主催事業(定期能、狂言全集)について、神奈川県文化芸術活動再開加速化事業補助金を活用して無料の動画配信を行い、能等の普及・促進を図りました。</p> <p>【その他】 ・令和元年12月に開設した「川崎浮世絵ギャラリー」は、国の「緊急事態宣言」等により、令和2年4月11日から5月31日の間休館いたしました。令和2年度は、7,949人(うち有料入場者6,610人)が来場されました。 ※令和元年度12月~3月 5,335人(うち有料入場者4,619人) ・国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」を受け、共催事業の「川崎・しんゆり芸術祭」は延期し開催いたしました。 5,000人 (平成30年度29,300人、令和元年度30,000人)</p>		H30通年	R1通年	R2通年	H30年6~3月	R1年6~3月	R2年6~3月	R2目標値	川崎能楽堂	25.9	29.8	23.9【減】	26.5	30.6	28.6		ラゾーナ川崎プラザソル	94.0	89.7	52.1【減】	97.3	90.0	63.8		新百合トウェンティワンホール	49.5	47.4	30.6【減】	47.5	43.7	33.0		アートガーデンかわさき	75.3	78.7	23.0【減】	74.0	79.7	27.2		平均	61.2	61.4	32.4【減】	61.3	61.0	38.2	64.5
		H30通年	R1通年	R2通年	H30年6~3月	R1年6~3月	R2年6~3月	R2目標値																																									
川崎能楽堂	25.9	29.8	23.9【減】	26.5	30.6	28.6																																											
ラゾーナ川崎プラザソル	94.0	89.7	52.1【減】	97.3	90.0	63.8																																											
新百合トウェンティワンホール	49.5	47.4	30.6【減】	47.5	43.7	33.0																																											
アートガーデンかわさき	75.3	78.7	23.0【減】	74.0	79.7	27.2																																											
平均	61.2	61.4	32.4【減】	61.3	61.0	38.2	64.5																																										

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標			目標・実績	H29年度 (現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	財団所管施設の稼働率	目標値			62.5	63.5	64.5	65.5	%
	説明	川崎市能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウエンティワンホール(多目的ホール等)、アートガーデンかわさきの区分利用率の平均値。	実績値	61.5	61.2	61.4	32.4		
2	財団所管施設における財団主催事業の参加者数	目標値			5,800	6,100	6,400	6,700	人
	説明	川崎市能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウエンティワンホール、アートガーデンかわさきにおける主催事業の参加者数	実績値	5,469	5,444	4,640	1,891		
指標1 に対する達成度		d	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満						
指標2 に対する達成度		d	※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

【指標1】
新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は利用キャンセルが多く発生したため、目標値を下回りました。過去3年間では、令和元年度は前年度を上回りましたが、2年度は新型コロナウイルスの影響により、過去の2年度を下回りました。川崎能楽堂については、パントマイムや動画撮影など能や狂言以外の公演を積極的に受け入れたため、低下幅を抑えることができ、休館期間以外ではほぼ横ばいとなっています。また、新百合トウエンティワンホールやプラザソルでは、新たな利用促進策(多目的ホールの月利用制限の見直し、基本料金の割引制度)を実施し、稼働率の低下抑制に努めました。

【指標2】
新型コロナウイルスによる公演中止等により、目標値を下回り、平成30年度から令和2年度の3年間に於いても、来場者数は減少傾向となりました。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	E

行政サービスコスト			目標・実績	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト	目標値			144,000	143,000	142,000	175,471 141,000	千円
	説明	直接事業費ー直接自己収入	実績値	151,918	122,854	171,921	182,139		
行政サービスコストに対する達成度		4)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上						

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

新型コロナウイルスの影響により、財団本部公益事業等の事業費の執行が抑制されて▲15,994千円となりましたが、同じ理由で施設利用料収入等が大幅に減収となったことなどにより自己収入が▲26,212千円となったため、財団本部事業の行政コストは前年度より増加しました。

本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(4)

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

本市施策推進に向けた事業取組②(令和2(2020)年度)

事業名	指定管理事業
計 画 (Plan)	
指標	①指定管理施設の稼働率、②指定管理施設における主催事業の参加者数
現状	市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場として、指定管理施設(ミュージア川崎シンフォニーホール等)の運営を行っています。稼働率等は概ね安定していますが、市民の文化芸術活動の振興のため、さらなる稼働率の向上、主催事業参加者の増加を図る必要があります。
行動計画	指定管理の継続受託を見据えながら、様々な媒体を活用した各施設の広報を展開するとともに、魅力的な企画の実施、施設相互の連携や施設の利便性の向上を図り、段階的な施設稼働率の向上を図ります。併せて、多様な主催事業を実施し、事業に関する市民ニーズや効果を検証しながら参加者数の増加を図ります。
具体的な取組内容	①令和2年度は、新型コロナウイルス禍において貸館施設の休館等を実施しており、大変厳しい状況にありますが、各指定管理施設の稼働率の向上に向けて、アートセンターや東海道かわさき宿交流館といった稼働率が低い施設について、ホームページや、広報紙等を通じた施設広報を積極的に行います。 ②令和2年度は、新型コロナウイルス禍において主催事業の中止や延期、定員50%以内での開催により、大変厳しい状況にありますが、主催事業の参加者数の向上に向けて、各事業の利用分析などを行うとともに、アンケート等により市民ニーズの把握を行い、より魅力的な事業を実施します。ホームページ、広報紙等を通じて積極的な広報を行います。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	<p>国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」などを受け、令和2年4月11日から5月31日まで指定管理3施設を休館し、開館後は感染症対策の各種ガイドラインに基づき、イベントの内容に応じて収容率50%で実施、さらに、本年1月8日から3月31日までは施設の利用時間の繰り上げなどを実施しました。</p> <p>【指標1】 ミュージア川崎シンフォニーホール、川崎市アートセンター、東海道かわさき宿交流館の3施設について、市民の文化芸術活動の場を提供するために、指定管理者として適切な管理運営を行うとともに、施設の有効活用に向けて、利用者のニーズに応じた利用調整や、様々な媒体を活用した各施設の広報等の取組を展開しました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により利用キャンセルが多く発生したため、ミュージア川崎シンフォニーホール及び川崎市アートセンターの稼働率は大幅に低下し、東海道かわさき宿交流館は、微減の状況にあります。</p> <p><各施設の稼働率></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30通年</th> <th>R1通年</th> <th>R2通年</th> <th>H30年6~3月</th> <th>R1年6~3月</th> <th>R2年6~3月</th> <th>R2目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミュージア川崎シンフォニーホール</td> <td>80.2</td> <td>75.8</td> <td>57.9【減】</td> <td>80.6</td> <td>75.4</td> <td>59.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市アートセンター</td> <td>61.4</td> <td>56.1</td> <td>39.5【減】</td> <td>62.7</td> <td>56.4</td> <td>46.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東海道かわさき宿交流館</td> <td>50.0</td> <td>46.4</td> <td>43.4【減】</td> <td>51.0</td> <td>46.7</td> <td>44.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>63.9</td> <td>59.4</td> <td>46.9【減】</td> <td>64.8</td> <td>59.5</td> <td>50.1</td> <td>64.5</td> </tr> </tbody> </table> <p><新型コロナウイルスによる施設利用キャンセルの件数> 総件数 2,075件 ミュージア:1,953件 アートセンター:115件 東海道:7件</p> <p>【指標2】 各施設における主催事業は、市民が文化芸術に触れる契機となるもので、ミュージア川崎シンフォニーホールの「フェスタサマーミュージア」や、それに伴う動画配信など、魅力的な企画の実施、効果的な広報(新聞広告など)等の取組を展開しましたが、新型コロナウイルスによる公演の中止や延期の影響により、各施設とも、参加者数は前年度より減少しました。</p> <p><各施設の主催事業参加者数(通年)></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>ミュージア川崎シンフォニーホール</td> <td>65,894人→29,904人 ▲35,990人 ※34事業中止</td> </tr> <tr> <td>川崎市アートセンター</td> <td>84,686人→36,898人 ▲47,788人 ※9事業中止</td> </tr> <tr> <td>(参考)東海道かわさき宿交流館</td> <td>1,412人→1,084人 ▲328人 ※2事業中止</td> </tr> </tbody> </table>		H30通年	R1通年	R2通年	H30年6~3月	R1年6~3月	R2年6~3月	R2目標値	ミュージア川崎シンフォニーホール	80.2	75.8	57.9 【減】	80.6	75.4	59.1		川崎市アートセンター	61.4	56.1	39.5 【減】	62.7	56.4	46.6		東海道かわさき宿交流館	50.0	46.4	43.4 【減】	51.0	46.7	44.6		平均	63.9	59.4	46.9 【減】	64.8	59.5	50.1	64.5	ミュージア川崎シンフォニーホール	65,894人→29,904人 ▲35,990人 ※34事業中止	川崎市アートセンター	84,686人→36,898人 ▲47,788人 ※9事業中止	(参考)東海道かわさき宿交流館	1,412人→1,084人 ▲328人 ※2事業中止
	H30通年	R1通年	R2通年	H30年6~3月	R1年6~3月	R2年6~3月	R2目標値																																								
ミュージア川崎シンフォニーホール	80.2	75.8	57.9 【減】	80.6	75.4	59.1																																									
川崎市アートセンター	61.4	56.1	39.5 【減】	62.7	56.4	46.6																																									
東海道かわさき宿交流館	50.0	46.4	43.4 【減】	51.0	46.7	44.6																																									
平均	63.9	59.4	46.9 【減】	64.8	59.5	50.1	64.5																																								
ミュージア川崎シンフォニーホール	65,894人→29,904人 ▲35,990人 ※34事業中止																																														
川崎市アートセンター	84,686人→36,898人 ▲47,788人 ※9事業中止																																														
(参考)東海道かわさき宿交流館	1,412人→1,084人 ▲328人 ※2事業中止																																														

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標			目標・実績	H29年度 (現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	指定管理施設の稼働率		目標値	61.3	62.5	63.5	64.5	65.5	%
	説明	ミュージア川崎シンフォニーホール(音楽ホール等)、川崎市アートセンター(小劇場、映像館)、東海道かわさき宿交流館(集会室等)の区分利用率の平均値	実績値						
2	指定管理施設における主催事業の参加者数		目標値	161,766	172,000	175,000	178,000	181,000	人
	説明	ミュージア川崎シンフォニーホール、川崎市アートセンターにおける主催事業の参加者数	実績値						

指標1 に対する達成度	C	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	d	

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

【指標1】
市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場を提供するため、利用者ニーズに応じた利用調整や施設の広報などに取り組みましたが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は利用キャンセルが多く発生したため、目標値は未達成となり、平成30年度から令和2年度の3年間においても、稼働率は減少傾向となりました。

【指標2】
令和2年度は、新型コロナウイルスによる公演中止等により、目標値を下回り、平成30年度から令和2年度の3年間においても、コロナの影響により来場者数は減少傾向となりました。

	達成状況	区分	D	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った		施設の管理運営、主催事業の実施を通して市民の文化活動の場の提供及び文化芸術に触れる機会の創出に努めましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、施設の利用キャンセルが増加し、多くの主催事業も中止となり、「指定管理施設の稼働率」指定管理施設における財団主催事業の参加者」の実績値が、いずれも目標値を大きく下回ったため。

行政サービスコスト			目標・実績	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値	924,855	924,855	924,855	924,855	924,855	千円
	説明	指定管理受託料等	実績値		924,855	928,658	964,319	1,039,324	

行政サービスコストに対する達成度	3)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が120%以上
------------------	-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

消費税増税分の補填等による指定管理料が増(15,752千円)、さらに新型コロナウイルスの影響による逸失収入補償金が増(60,148千円)となり、事業未実施による返還(▲896千円)もありましたが、行政サービスコストは増加し、目標値には達しませんでした。 ※端数処理の関係で数字間の計算に差異があります。

	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価)	区分	(4)	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である		新型コロナウイルスの影響による逸失収入に係る補償金の増等により、行政サービスコストが目標値を大幅に上回るとともに、本施策推進に関する各指標についても目標値を大きく下回ったため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II 新型コロナウイルスによるところもありますが、目標未達成の取組があったため、市民ニーズや社会変容を踏まえた事業企画(動画配信等)や最新ICT技術等の研究、効果的な広報による施設利用の促進など、取組の改善を行いながら、本取組を継続します。

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

本市施策推進に向けた事業取組③(令和2(2020)年度)

事業名	文化芸術に係る中間支援
計 画 (Plan)	
指標	①文化芸術に関する相談件数、②パラアート事業の支援団体数
現状	財団が市とともに文化施策の一翼を担っていくためには、相談支援、地域のネットワークの構築、ボランティア等の人材育成など、文化芸術に係る中間支援を行っていくことが求められています。 平成29年度より「パラアート推進モデル事業」を市から受託し、障害の有無に関わらず文化芸術に親しめるパラアートの中間支援の取組を始めましたが、その他の中間支援の取組を進める必要があります。
行動計画	パラアートを含む文化芸術一般に関する相談に対応できるよう、職員のスキルアップを図るとともに、相談窓口の広報周知の取組を行います。 市からの補助金の活用によりパラアートの環境づくりを進めるとともに、平成31年度に、自律的な事業を展開します。
具体的な取組内容	パラアートの中間支援機能(プラットフォーム)の構築を目指して、「パラアート推進事業」を実施し、展示プログラムやネットワークプログラム、公募・連携プログラム、インターネットによる情報発信とともに、新たに、相談窓口の開設・中間支援機能の調査研究を行い、文化芸術関係団体等とのネットワークを構築し、パラアートの中間支援の取組を進めます。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	<p>【指標1】 文化芸術に関する専門組織として、相談支援や地域のネットワークの構築などの中間支援の取組を推進しました。 令和2年11月に開設した相談窓口において、文化芸術活動に関する助成や広報支援、アーティストの紹介等に関して市民や関係団体、企業等から寄せられた相談等について、必要な情報を的確に提供するとともに、パラアート関係者が抱える課題の解決に向けた研修や関係者同士の交流等を促進するためのネットワーク会議を開催するなど、文化芸術に関する専門組織として、きめ細かく対応することができました。 日本芸術文化振興会が主宰する「アーツカウンシル・ネットワーク」に参加し、オンライン会議等を通じて、アーツカウンシルに関する先行事例など、中間支援機能強化につながる調査・研究を行いました。</p> <p>【指標2】 障害の有無に関わらず、文化芸術に親しめる環境づくりを目指し、川崎市の補助事業として「パラアート推進事業」を実施しました。展示プログラムでは「Colorsかわさき2020展」を10日間開催し、出展者が増加しました(118人→131人)。 また、コロナ禍で会場に来られない方のために、インターネット上でも作品を無料公開しました。 ・ネットワークプログラムは、パラアート関係者の課題を解決する研修や関係者同士の交流等を促進するネットワーク会議を2回開催しました。 ・一般公募プログラムでは、企画を公募し、5団体(R1年度5団体)に事業を委託しました。 ・情報発信について、障害の有無に関わらず親しめる文化芸術活動のイベント情報等を収集・発信するサイトとして、「ばらあーとねっど」を運営し、34件のイベントを紹介しました。 ・事業の実施に当たっては、市内特別支援学校や障害福祉施設等と連携し、本事業の実施が、各団体の活動拡充の契機となるよう支援を行いました。</p>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標			目標・実績	H29年度 (現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	文化芸術に係る相談件数		目標値	/	20	30	40	50	件
	説明	財団において対応した、文化芸術に関する相談件数	実績値		-	20	35	40	
2	パラアート事業の支援団体数		目標値	/	9	10	12	14	団体
	説明	事業委託や連携協力等によりパラアートの事業に参画し、活動支援を行った団体数	実績値		8	10	10	13	

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満
指標2 に対する達成度	a	※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

川崎市と連携して、本市の文化芸術施策を推進するために、パラアート推進事業を中心とした中間支援の取組を強化しました。パラアート推進事業を開始して4年目となり、令和2年度は情報発信サイト「ばらあーとねっと」内に相談フォームを新設することにより、事業の認知度も高まってきたことから、指標1、指標2ともは目標値を達成しました。情報発信サイト「ばらあーとねっと」を財団ホームページ内で運営し、文化芸術活動のイベント等の収集、発信に努めました。指標1、指標2とも、平成30年度～令和2年度の各年度、目標値を達成しており、特に、パラアート事業の支援団体数については、ネットワークプログラム等により3件増えています。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A

行政サービスコスト			目標・実績	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値	/	7,314	7,314	7,000	34,735 6,000	千円
	説明	直接事業費ー直接自己収入	実績値		7,314	7,314	2,693	1,965	

行政サービスコストに対する達成度	1)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が120%以上
------------------	----	------------------------------------------------------------------------------------------------

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

パラアート推進事業については、事業費の節減に努めました(▲472千円)。また、市において、文化庁の補助金(文化芸術創造拠点事業 256千円増)の活用により市補助金が減額されたことにより、行政サービスコストが下がり、目標を達成することができました。

本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(1)

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅱ

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

3. 経営健全化に向けた取組①(令和2(2020)年度)


項目名	自主財源の確保
計画 (Plan)	
指標	自己収入額
現状	経常収益から市の補助金・負担金を除いた財団の自己収入はおおよそ1,600,000千円前後で推移していますが、財団の経営基盤を強化して、新たな事業展開や優秀な人材の確保等の課題に対応するためには、自己収入を増やしていく必要があります。
行動計画	施設利用の促進による施設利用料収入の増加、寄付金・協賛金等の確保、国等の補助金制度の活用により、段階的な自己収入の増加を図っていきます。
具体的な取組内容	各施設の利用促進による施設利用料収入の増、寄付金や協賛金等の確保、国の補助金等の活用等により、自己収入の増加を図ります。 なお、令和2年度は、新型コロナウイルス禍において主催事業の中止や延期、定員50%以内での開催、貸館施設の休館等を実施しており、自己収入は大変厳しい状況にあるため、雇用調整助成金や持続化給付金等の国庫補助金、神奈川県神奈川文化芸術活動再開加速化事業補助金の活用を図ります。

実施結果 (Do)

経営健全化に向けた活動実績	<p>国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」などを受け、令和2年4月11日から5月31日まで財団各施設を休館し、開館後はガイドラインに基づき、イベントの内容に応じて収容率50%で実施、さらに、本年1月8日から3月31日までは施設の利用時間の繰り上げなどを実施しました。</p> <p>そのため、自己収入は大幅に減少していますが、財団本部所管施設のうち、プラザソルでは基本料金の割引制度、新百合21ホールでは多目的ホールの月利用制限の見直しなどにより収入の確保に努め、また、新しい生活様式に対応するため、能楽堂の2公演(定期能、狂言全集)の動画配信について神奈川県文化芸術活動再開加速化事業補助金を活用いたしました。</p> <p>また、休館中の休業手当に対する雇用調整助成金、収入減に伴う持続化給付金、小学校等の休校に伴う小学校休業等対応助成金、テレワーク導入に伴う神奈川県テレワーク導入促進事業費補助金を活用いたしました。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価 (Check)

経営健全化に関する指標		目標・実績	H29年度 (現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	自己収入額	目標値		1,660,440	1,664,440	1,668,440	1,672,440	千円
	説明 経常収益から、市補助金・負担金を除いた額 ※個別設定値:1,650,343(過去の平均値)	実績値	1,656,440	1,641,174	1,687,364	1,356,396		
指標1 に対する達成度		C	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について) 国・県の補助金など新たな自己収入の確保にも努めましたが、国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」などに基づき、主催事業の中止や財団各施設の休館、開館後の利用キャンセル等により、経常収益は1,818,259千円となりました(▲258,429千円)。補助金・負担金461,863千円(新型コロナウイルスの影響による逸失収入に係る補償金を含む。72,538千円増)を差し引いた自己収入額は1,356,396千円となり(▲330,967千円)、目標値には達しませんでした。※端数処理の関係で数字間の計算に差異があります。								

	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	D 新型コロナウイルスの影響による施設利用料収入の減等により自己収入は1,356,396千円と、目標額1,668,440千円を下回ったため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅱ

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

経営健全化に向けた取組②(令和2(2020)年度)	
項目名	自律的な事業運営
計画(Plan)	
指標	事業費に対する自主財源率
現状	事業費に対する事業収益(指定管理料を含む)・協賛金等の自主財源の割合は概ね80%前後で推移していますが、新たな収入の確保や支出削減の取組を進めて、川崎市の財政支援依存度を低減し、自律的な事業運営を行う必要があります。
行動計画	有料事業の実施、協賛金の確保等により事業収入の増加を図るとともに、既存事業の見直しや予算執行の効率化等により支出を削減することで、事業費に対する自主財源率の段階的な向上を図っていきます。
具体的な取組内容	有料事業(定期能やラゾーナ寄席等)の実施、ミュージアム川崎シンフォニーホール協賛金の確保等により、事業収入の増加を図るとともに、各事業の採算性の分析を行い、既存事業の見直しや予算執行の効率化等により支出を削減することで、事業費に対する自主財源率の向上を図ります。 なお、令和2年度は、新型コロナウイルス禍において主催事業の中止や延期、定員50%以内での開催、貸館施設の休館等を実施しており、自己収入は大変厳しい状況にあるため、神奈川県補助金の活用を図ります。

実施結果(Do)	
経営健全化に向けた活動実績	国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」などを受け、令和2年4月11日から5月31日まで財団各施設を休館し、開館後はガイドラインに基づき、イベントの内容に応じて収容率50%で実施、さらに、本年1月8日から3月31日まで施設の利用時間の繰り上げなどを実施しました。 そのため、各施設の施設利用料収入は大幅に減少していますが、財団本部所管施設のうち、プラザソルでは基本料金の割引制度、新百合21ホールでは多目的ホールの月利用制限の見直しなどにより収入の確保に努めるとともに、ミュージアム川崎シンフォニーホール協賛金は前年度を下回るものの、その確保にも努めました。また、公演延期や公演数の見直しに伴う経費減、市退職者の人件費0.05月分削減など、経費の削減を図りました。 また、新しい生活様式に対応するため、神奈川県文化芸術活動再開加速化事業補助金を活用して、能楽堂の2公演(定期能、狂言全集)の動画配信いたしました。

評価(Check)								
経営健全化に関する指標	目標・実績	H29年度(現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位	
1	事業費に対する自主財源率	目標値		84.8	85.1	85.4	85.7	%
	説明 事業費に対する事業収益・協賛金収入の割合	実績値	83	83.7	82.0	77.4		
指標1に対する達成度	C	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)								
国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」などに基づき、主催事業等を中止したことから、事業費は1,733,177千円となり(▲266,202千円)、事業収益についても令和2年4月11日から5月31日まで財団各施設を休館し、開館後も利用キャンセル等があったことから、協賛金収入と合わせて1,342,134千円となり(▲296,721千円)、事業費に対する自主財源率は目標値には達しませんでした。								

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	D 事業費は前年度より抑制されたものの、新型コロナウイルスの影響による施設利用料収益の減等により、事業費に対する自主財源率は77.4%と、目標値85.4%を下回ったため。

改善(Action)		
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II 新型コロナウイルスの影響により目標は未達成となったものであり、令和3年度においても引き続き新型コロナウイルスの影響が考えられるが、市民ニーズや社会変容を踏まえた事業企画(文化コンテンツ配信等)、施設の積極的な広報や多目的化の推進による事業収入等の確保、事業費の支出の効率化を一層図るなど、取組の改善を行いながら、本取組を継続します。

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

経営健全化に向けた取組③(令和2(2020)年度)

項目名	収益事業の推進
計画 (Plan)	
指標	収益事業の経常収益
現状	財団において、利益を上げるための収益事業として、施設管理収益事業、物品販売収益事業を位置付けています。運営施設の施設使用料収入を主とし、概ね310,000千円前後で推移していますが、収支相償が求められる公益目的事業と異なり、収益事業は財団の経営基盤の強化に直接的につながることから、事業の強化に取り組む必要があります。
行動計画	新百合トウェンティワンホール等の施設利用及び物品販売の促進に取り組み、段階的な経常収益の増加を図っていきます。
具体的な取組内容	令和2年度は新型コロナウイルス禍において主催事業の中止や延期、定員50%以内での開催、貸館施設の休館等を実施しており、大変厳しい状況にあります。財団所管施設の積極的な広報による施設利用料収入の増、ミュージアム川崎シンフォニーホールや浮世絵ギャラリーにおける物品販売の促進に取り組みます。

実施結果 (Do)

経営健全化に向けた活動実績	国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」を受け、令和2年4月11日から5月31日まで財団各施設を休館し、開館後はガイドラインに基づき、イベントの内容に応じて収容率50%で実施、さらに、本年1月8日から3月31日までは施設の利用時間の繰り上げなどを実施しました。 そのため、各施設の施設利用料収入は大幅に減少していますが、財団本部所管施設のうち、コロナ禍における新たな取組として、プラザソルでは基本料金の割引制度、新百合21ホールでは多目的ホールの月利用制限の見直しなどにより、収入の確保に努めました。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価 (Check)

経営健全化に関する指標		目標・実績	H29年度 (現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	収益事業の経常収益	目標値		321,000	322,500	324,000	325,500	千円
	説明 収益事業(施設管理収益事業、物品販売収益事業)の経常収益額	実績値	310,661	294,202	292,643	276,378		
指標1 に対する達成度		C a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)								
国の「緊急事態宣言」や川崎市の「行政運営方針」を受け、令和2年4月11日から5月31日まで財団各施設を休館し、開館後も利用キャンセル等があったことから、前年度比で施設管理収益事業は▲13,762千円、物品販売収益事業は▲2,504千円となり、目標値を下回りました。※端数処理の関係で数字間の計算に差異があります。								

	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	D 新型コロナウイルスの影響による施設利用料収益、物販収益等の減により、収益事業の経常収益は276,378千円と、目標値324,000千円を下回ったため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	Ⅱ	目標が未達成であったため、市民ニーズや社会変容を踏まえた事業企画(文化コンテンツ配信等)、施設の積極的な広報による事業収入等の確保、物販事業の多角的な展開など、さらなる取組の改善を行いながら、本取組を継続します。

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

4. 業務・組織に関する取組①(令和2(2020)年度)

項目名	職員の専門性の向上
計画 (Plan)	
指標	研修への参加回数
現状	文化芸術の専門組織として、職員のスキルアップを図り専門性を向上させることは大きな課題であり、財団では、施設や職域ごとに文化芸術等に関する職員研修を実施しています。
行動計画	現在施設ごとに実施している研修を合同で実施したり、国等が主催する外部の研修に職員を積極的に派遣させるなどし、職員のスキルアップを図ります。
具体的な取組内容	財団職員としての基礎的な研修(経理・契約、接遇、危機管理など)、文化施設職員としての専門性を高める研修(舞台音響照明、アートマネジメント等)の体系的・計画的な実施、各施設と本部の合同研修など、より効果的な手法で実施し、人材育成を図ります。文化庁や全国公立文化施設協会等主催の外部研修に職員を積極的に派遣します。コロナ禍において、神奈川県公立文化施設協議会主催の研修会(新型コロナウイルス感染対策)等に職員を参加させます。

実施結果 (Do)

業務・組織に関する活動実績	<p>財団において、職域等に応じた専門的・技術的な研修を開催するとともに、全国公立文化施設協会や神奈川県公立文化施設協議会主催の研修、NPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター主催の心のバリアフリー推進員養成研修講座や川崎市産業振興財団主催のサービス向上委員会への出席など、職員の資質の向上やスキルアップを図りました。</p> <p>各施設で実施された専門研修に、本部職員が参加するなど、職員間の連携や情報共有を促進し、財団全体として総合的な人材育成の取組を推進しました。</p> <p>新型コロナ感染防止を図るため、神奈川県公立文化施設協議会主催の研修会(新型コロナウイルス感染対策)に、財団本部及び各指定管理施設から担当者を職員を参加させ、感染防止に係る知識の習得に努めました。</p> <p>しかしながら、令和2年度はコロナの影響により参加できる研修が限られていたため、参加回数は目標値を下回りました。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価 (Check)

業務・組織に関する指標		目標・実績	H29年度(現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	研修への参加回数	目標値	15	17	19	21	23	回
	説明 専門性向上等のための研修への財団職員の参加回数	実績値		20	27	10		
指標1に対する達成度		d	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について) 職場でのOJT等により、業務に必要な幅広い知識の習得を促進し、職員の資質の向上、意識の醸成を図り、財団職員としての専門的知識を向上させることができました。専門性向上等の研修への参加回数は、平成30年度から研修への参加回数を増やし、専門性の向上に努めることにより、平成30年度、令和元年度とも目標値を上回りましたが、令和2年度はコロナの影響により参加できる研修が限られていたため、目標値を下回りました。								

	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	E 新型コロナウイルスの影響で参加できる研修が限られたことから、成果指標である「研修への参加回数」は10回と目標値の21回を大きく下回ったため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II 目標が未達成だったため、研修に参加しやすい環境を整備して、研修参加の機会を確保するなど、取組の改善を行いながら、本取組を継続します。

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市文化財団	所管課	市民文化局 市民文化振興室
----------	----------------	-----	---------------

業務・組織に関する取組②(令和2(2020)年度)	
項目名	コンプライアンス(法令等の遵守)の徹底
計画(Plan)	
指標	コンプライアンスに反する事案の発生件数
現状	財団は、職員のコンプライアンス(法令等の遵守)の意識の徹底を図っており、法令違反行為等のコンプライアンスに反する事案は発生していません。
行動計画	職員研修等を通じて職員のコンプライアンスに関する意識の徹底を図るとともに、外部監査を実施する等のコンプライアンスの組織体制を整備し、法令違反行為等の発生を予防を図ります。また、法令違反行為等が明らかになった場合には、速やかに是正措置および再発防止措置を講じます。
具体的な取組内容	不祥事案の情報共有や本市の通達文書等により、職員のコンプライアンスに関する意識の徹底を図り、法令違反行為等の発生予防を図ります。また、法令違反行為等が明らかになった場合には、速やかに是正措置および再発防止措置を講じます。

実施結果(Do)	
業務・組織に関する活動実績	川崎市における不祥事案の情報提供、通達及び依命通達の回覧、職場での情報共有などにより、職員のコンプライアンス(法令等の遵守)意識の醸成や徹底を図り、法令違反行為等のコンプライアンスに反する事案はありませんでした。

評価(Check)								
業務・組織に関する指標		目標・実績	H29年度(現状値)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	コンプライアンスに反する事案の発生件数	目標値		0	0	0	0	件
	説明 財団職員による法令違反行為等の発生件数	実績値	0	0	0	0		
指標1に対する達成度		a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について) 川崎市における不祥事案の情報提供、通達及び依命通達の回覧、職場での情報共有等を通じて、職員のコンプライアンス(法令等の遵守)意識の醸成、徹底を図ることにより、法令等の違反行為、コンプライアンスに反する事案はなく、平成30年度～令和2年度の3年間、財団職員による法令違反行為等の発生件数はゼロで、目標値を達成しました。								

	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A 法令違反行為等のコンプライアンスに反する事案はなく、目標値を達成したため。

改善(Action)		
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I

●法人情報

(1) 財務状況

収支及び財産の状況(単位:千円)		平成30(2018)年度	令和1(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)				
	経常収益	1,989,252	2,076,688	1,818,259	
	経常費用	1,942,613	2,093,057	1,834,839	
	当期経常増減額	46,639	△ 16,369	△ 16,580	
	当期一般正味財産増減額	44,734	△ 18,429	△ 16,650	
(指定正味財産増減の部)	当期指定正味財産増減額	20			
	正味財産期末残高	470,955	452,526	435,875	
貸借対照表	総資産	647,411	683,196	644,044	
	流動資産	313,569	377,302	315,528	
	固定資産	333,842	305,894	328,516	
	総負債	176,457	230,670	208,169	
	流動負債	176,457	230,670	208,169	
	固定負債				
	正味財産	470,955	452,526	435,875	
一般正味財産	439,176	420,747	404,096		
指定正味財産	31,779	31,779	31,779		
エラーチェック		OK	OK	OK	OK

本市の財政支出等(単位:千円)		平成30(2018)年度	令和1(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度
補助金		331,832	354,610	384,513	
委託料		7,314		89	
指定管理料		695,395	713,922	710,054	
貸付金(年度末残高)					
損失補償・債務保証付債務(年度末残高)					
出捐金(年度末状況)		30,000	30,000	30,000	
(市出捐率)		100.0%	100.0%	100.0%	
財務に関する指標		平成30(2018)年度	令和1(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度
流動比率(流動資産/流動負債)		177.7%	163.6%	151.6%	
正味財産比率(正味財産/総資産)		72.7%	66.2%	67.7%	
正味財産利益率(当期正味財産増減額/正味財産)		9.5%	-4.1%	-3.8%	
総資産回転率(経常収益/総資産)		307.3%	304.0%	282.3%	
収益に占める市の財政支出割合 (補助金+委託料+指定管理料)/経常収益		52.0%	51.5%	60.2%	

法人コメント		本市コメント
現状認識	今後の取組の方向性	本市が今後法人に期待することなど
<p>●「流動比率」、「総資産回転率」とも100%を超えており、経営の安定性は一定程度確保できています。</p> <p>●「正味財産比率」は67.7%で前年度より微増しており、今後も経営の安定化に向けて比率を高める必要があります。</p> <p>●コロナの影響により自己収入が減少したため、「収益に占める市の財政支出割合」は60%を超えており、川崎市補助金を一定額確保するとともに、自己収入の増に努める必要があります。</p>	<p>●社会変容を踏まえた魅力的な企画の立案や積極的な広報、利用基準の緩和等により、入場料収入や施設利用料収入等自己収入の増に努めるとともに、国等補助金を積極的に活用し、収益の確保を図ります。</p> <p>●効率的な事業運営を行い、支出の抑制に努めます。</p> <p>●川崎市補助金について、財団経営の健全化や安定化と法人に求められる役割の変化に合わせて、補助事業の内容を精査し、補助金のあり方について協議を進めます。</p>	<p>本法人は、市と共に文化行政の推進を担う専門組織として非常に大きな役割を担っています。多くの文化芸術施設を運営しているため、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受けて経常収支がマイナスとなり、正味財産も減少となりましたが、社会変容に対応した文化芸術事業のあり方を検討しながら、文化芸術事業及び施設運営の収益性を高めて自己収入の増加に努めるとともに、事業コストの削減を図ることで経営基盤を強化し、より安定した事業実施体制を構築することを期待します。</p>

(2) 役員・職員の状況(令和3年7月1日現在)

	常勤(人)			非常勤(人)		
	合計	(うち市派遣)	(うち市OB)	合計	(うち市在職)	(うち市OB)
役員	2	0	2	10	0	0
職員	48	1	10	0	0	0

【備考】

- 総役員に占める本市職員及び退職職員の割合が3分の1を超過していることについての法人の見解・理由
- ・今後の方向性